



### 石田さんファミリー

2018年に長野県から空き家情報バンク制度を活用して京丹波町(竹野地区)に移住。大黒柱の広幸さんは、京都府「里の仕掛け人」として、京都府内産の農産物を使用した加工品の企画開発・販売を行う(株)京都ものがたりの看板商品「京都やさいおいる」の製造・販売のサポートを行なっています。



### 東 三喜さん

2015年に京都市内から空き家情報バンク制度を活用して京丹波町(和知地区)に移住。閉校した質美小学校の一室でカフェ「盲亀浮木」を運営。町内外から多くのリピーターがくる人気店となっています。

### 移住者にインタビュー

# 京丹波町のここがいい

京丹波町では、人口減少対策として、空き家情報バンク制度をはじめ、各地域を案内するナビゲーターを配置するなど、移住定住に力をいれています。京丹波町に移住された人たちの思いをインタビューしました。



京都やさいおいるの原料となるバジルの栽培を竹野小学校の児童と一緒にする石田さん

移住には不安もありましたが、ここで不安より期待が上回り、このことが移住の決め手となりましたね。

### 京丹波町に住んでみて

実際に住んでみたら、地域の人たちのウェルカム度がすごかったですね。あと水と空気がおいしい！地域の皆さんは当たり前で気づきにくいですが、名もない湧き水とかがあって水と空気がおいしいのは一番の幸せですね。

他にも、毎日子どもと一緒に散歩するんですが、妻が出産の関係でしばらく家をはなれていると「最近見ないね」「どうしたん」と心配してくれるおじいちゃんやおばあちゃんがいて、心が温まりました。また、町内の小学校には言語聴覚士などが配置されており子どもの発達についてプロがアプローチしてくれます。めずらしいですね。子育て世代には良い環境が整っています。

### 移住を考えている人たちへ

地域に産業がないと移住は難しいので、次の移住者の方が移住しやすい環境を整えるには地域を活性化させることが一番の近道と信じて、6次産業化に力を入れているこの地域で地域の人たちと一緒にいろいろな取り組みをしています。移住にはものすごくエネルギーを使いますが、不安より期待が少しでも勝ったらその時が移住のタイミング！期待が後押しになります。思い切って来てみてください。

## お金を出しても手に入らないものがある

### 京丹波町を選んだ理由は？

田舎で暮らしてみたい思いがあり、友人から京丹波町を紹介してもらいました。京丹波町の第一印象は「緑が濃い」、「水がきれい」、「近所付き合いなど人との関係が濃い」でした。京丹波町の他にも近隣の市町を訪れましたが、京丹波町に一番心を惹かれました。

移住の決め手となったのは、当時小学5年生だった息子から「お母さんここに決めて」という言葉があり、また、私自身も京丹波がいいと思っていたので思い切って移住しよう決めました。

### 京丹波町に住んでみて

野菜など食べ物の新鮮度が間違いに良くておいしいです。5年も住むとあたりまえになるかと思っていただけでもおいしくいただいています。あとやっぱり良くも悪くも人の付き合いが濃密ですね。移住してから地域の人にどれだけ助けていただいたことか。地域の人がいなければ生活が成り立たないので、地域との付き合いは大切にしています。他にも、環境の面で静けさなど、京都市内に住んでいたらお金を出しても手に入らなかったものが

ここにはあります。雪が降ってシーンとなり、やかんの音しかなかったときはものすごく贅沢を感じました。あえて不便さを求めてやってきた私にとっては何もかも素敵ですね。



## 地域のウェルカム度がすごいですね！

### 京丹波町を選んだ理由は？

まずは人数が少ない小学校に通わせたいという思いと、自然豊かなところで子育てがしたいという思いがありました。そこに京丹波町へ移住した知人に「竹野小学校」を紹介してもらったのがはじまりですね。実際に京丹波町に来て、竹野小学校を見学して、先生が全児童の名前を覚えていることにびっくりしました。どんな子にでも目が行きとどくことは親としてすごく安心感がありました。

また、先生と子ども、地域がとても近い印象を受けました。